

### 民生委員・児童委員が変更となりました (任期:平成28年11月30日まで)

・片岡 典子さん  
 担当地区：高宮町（五十貫部、土居之内）

・望溪 哲江さん  
 担当地区：甲田町（大城、西の谷、中条、中迫、下城、荒楨牧場）

※民生委員・児童委員には、安芸高田市生活指導員を委嘱しています。



### 平成27年度教育委員会委員が決まりました



3月に行われた安芸高田市議会定例会で天清 一光さんが教育委員会委員として選任同意されました。

また、4月28日(火)に行われた安芸高田市教育委員会会議(臨時会)で安芸高田市教育委員会 教育委員長、委員長職務代理が右表のとおり決まりました。

教育委員会委員(6名)の構成

委員長	上田 隆之
委員長職務代理	天清 一光
委員	永岡 サヨ子
委員	山本 ひろあき 博明
委員	金川 よしひろ 佳寛
教育長	永井 はつお 初男

### 人権擁護委員に委嘱されました

平成27年4月1日委嘱  
 寺川 壽久さん(美土里町・新任)

### ジュニア世界選手権大会出場おめでとうございます

2015 カヌースラローム ジュニア世界選手権大会  
 山口県立萩商工高等学校 岡崎 遥海さん(吉田中出身)

「アートまつりin河原」は恒例の第7回「アートまつりin河原」が安芸高田市内はもとより、県内外から5,000人以上の皆様が参加し、盛況に開催されました。私も第1回から毎年参加させて頂き、毎回「似顔絵」を描いて頂くことを楽しみにしています。また、毎年参加者が増えている事を実感し心強く思っています。

主催者の「特定非営利活動法人 ふるさとネットワーク」の稲垣文孝理事長は、この活動を通じて、地域と都市の芸術文化の発表・交流が広がり、多くの来場者の皆様に楽しんで頂ければ幸いと心強い発言をされています。

向原アートまつりは、7年前から毎年、向原農村交流館「やすらぎ」と「ふるさと河原公園」を中心に、音楽ライブなどステージが催され、アートクラフト展示、物作り体験など80店舗、フード&飲み物など30店舗が出店され多彩な内容で開催されています。親水護岸「河原公園」の河川敷の素晴らしい絶景の間で、若者の自由な発想のもと、思い思いに数多くの店舗が出店をされており、この光景を見て私は、十数年前東京に住んでいた頃、若者で賑わった原宿や吉祥寺のムードを思い出しました。「アートまつり」の主催者(実行委員会)は、参加者に対して安全・衛生に関する以外の規制は、ほとんど課さないのが特徴で、若者の自由な発想を大切に「まつり」です。その「空間」では、若者と高齢者、男女、市内外の人、異人種等のあらゆる人の



出合いを創造してくれます。お互いの人格を尊重し、お互いが認め合う「場」づくりは、これからの安芸高田市のまちづくり、特に若者定住に欠かせない大切な事だと思っています。開催にあたっては、実行委員会の皆様の綿密な企画・準備が必要です。実行委員会では、半年前から市内外からの出店者の方々とネットを通じて募集・調整を行っています。準備は2~3日前から行い、農繁期のためスタッフの確保に大変苦慮しております。ボランティアによる対応には、限界を感じておられるのが現状であり、行政としても今後持続すべき支援を考えていきたいと思っています。

安芸高田市は、毛利元就や甲立古墳等の歴史の遺産や今後の活用が期待できる空き家がたくさんあります。また、広島市に隣接し、芸備線・中国縦貫道・国道54号等、交通網にも恵まれています。サンフレッチェ広島のマザータウン、湧水レオリックの本拠地であり、スポーツの盛んなまちです。また、神楽、田楽等の伝統芸能も盛んであり、これら「宝」を安芸高田市に訪れた人にPRしていく事が大切だと思っています。

安芸高田市に古くからある文化等の地域資源と都市との交流を軸に、新しい夢の育みに挑戦する、若者達のエネルギーは私を含む高齢者にとって大変新鮮味を感じる活性化の一助となると確信をしています。

先般、今後10年(平成27年~平成36年)を見越し、人口減少・過疎化の進行・少子高齢化の進展等を踏まえた「第2次安芸高田市総合計画」を策定しました。今後、新たな将来像として「人がつながる田園都市 安芸高田」を唱え、その実現に向けて「人が集い育つまちづくり」、「安心して暮らせるまちづくり」、「地域資源を活かしたまちづくり」の3つの都市像をもって新たなまちづくりに挑戦していくこととしています。文化を通じて都市との交流は大切なことと思います。



「一番のこだわりは、柚子の風味を最大限生かしたことです。苦みの少ない、川根柚子でしか作ることでできない、柚子の繊細な香りや甘み、まろやかな酸味がしっかりと伝わるように作りまし」と語るのは、川根柚子協同組合企画・営業部長の熊高順八さん。この度、川根柚子協同組合の「柚子ウアターケーキ」が、千葉市の「幕張メッセ」で開催されたアジア最大級の食品・飲料専門展示会「FOOD EX JAPAN」の「FOOD EX 美食女子」グランプリ2015において、金賞を受賞しました。

「他のバターで作ると、バターの味が強すぎて、柚子の風味が消えてしまいますが、



くせの少ない広島県庄原産の七塚バターを使用することで、柚子の風味を生かすことができます。また、卵は向原農園の卵を使っていますし、素朴な甘みを出す「もち米飴」は広島県福山産、小麦粉と砂糖は北海道産、といったように、原材料は全て国内のものを使用し、添加物も一切使用していません。加工場の職員の意見を聞いて、試行錯誤しながら、2年以上の歳月をかけて作りまし

川根の気候で育った柚子は、皮が厚くなるため苦みが少なく、甘みが強いことが特徴です。この柚子を川根の産産にしようと、川根柚子協同組合の前身である川根柚子振興協議会が、昭和57年に結成されました。柚子が産産となって地域の基盤となり、雇用を生み出し、地域の過疎化を防ぎ、盛り上げていく、ということを理念に先達の皆さんが努力に努力を重ねてこられ、平成24年2月に川根柚子協同組合となった後も、地域の活性化に取り組み続けられています。

また、平成24年2月から、ブランド感を出すため、ロゴとパッケージのデザインを



一新。「派手なデザインではなく、里山で、一つひとつ丁寧に手作りしている」ということが伝わるような、素材で深みのあるデザインに統一しました」と熊高さん。味のあたるパッケージからも、手作りのあたたかい雰囲気が伝わってきます。

柚子の風味を感じる上品な味、しっとりとした食感を愉しむこともできる「柚子ウアターケーキ」。皆さんも一度、味わってみてはいかがでしょうか。

お問い合わせ先  
 川根柚子協同組合 ☎0120-0311788

川根柚子でしか作ることでできないもの  
 「柚子ウアターケーキ」が「FOOD EX 美食女子」グランプリで金賞を受賞

川根柚子協同組合(高宮町)